

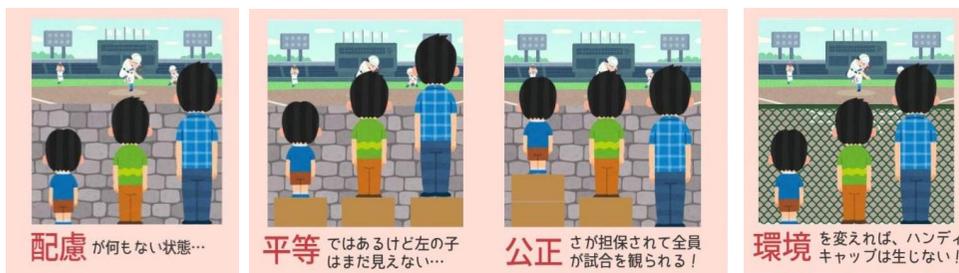
# 球磨支援通信

熊本県立球磨支援学校  
令和6年(2024年)7月 第2号

## 合理的配慮とは

困難や障がいのある人であっても、周りの環境を整えたり、適切なサポートをしたりすることで、これまでできなかったことができるようになることがあります。合理的配慮とは、障がいがある人も、障がいのない人と同様に社会活動に参加し、自分らしく生きていくための必要な調整をするという考え方です。

困難や障がいのある人たちの障壁を視覚化すると・・・



学校現場で求められる「合理的配慮」について文科省はこう述べています。

- ・合理的配慮は、「教育を受ける権利」を保障するための、必要かつ適当な変更・調整です。
- ・合理的配慮は、障がいのある幼児、児童及び生徒に対し、その状況に応じて、個別に必要とされるものです。
- ・障がいのある幼児、児童及び生徒やその保護者から、合理的配慮を求める申し出があった場合、その実施に伴う負担が過重でない限り、合理的配慮を提供しなければなりません。

「配慮」という言葉を聞くと「してもらうもの」「してあげるもの」というニュアンスを感じるかもしれませんが、しかし、「合理的配慮」の原語である Reasonable Accommodation の Accommodation という言葉には、「調整・便宜」という意味合いが込められています。お互いにとって過ごしやすい環境を作るにはどうすればいいか？という発想をもって対話を進めることが大

切です。実際に行われる合理的配慮の内容は、本人と周囲の環境によって異なってきます。だからこそ、配慮を必要とする本人と配慮を実施する側との対話・合意形成が重要です。

「障害者の権利に関する条約」は、共生社会の形成の実現に向けて、障がいのある子供も障がいのない子供も共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」の構築を求めています。インクルーシブ教育システムの実現には、合理的配慮の提供が欠かせません。合理的配慮の提供には、学校現場の工夫が不可欠ですね♪

## 合理的配慮を提供する際の留意点

インクルーシブ教育システムで求められることは、障がいのある子供と障がいのない子供が共に学ぶことだけではありません

障がいがある幼児、児童及び生徒それぞれが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ち、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていることが大切

提供した合理的配慮により十分に学んでいるかを確認

合理的配慮を提供したことにより十分学べるようになっているかを確認。提供した合理的配慮については、定期的に評価を行い、改善することが必要

障がいの状態に則した評価の工夫

幼児、児童及び生徒の障がいの状態等を十分踏まえた上で、学習目標の達成状況や提出物を確認するなど、様々な方法を活用して評価。その際は、努力やいいところを認め、ほめ、励ます

合理的配慮の提供の目的は

「十分な教育を受けることができる」ことです！

参考資料：インクルーシブ教育システムの実現に向けた合理的配慮の提供～障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の施行に向けて～パンフレット 平成28年3月 熊本県教育委員会

# パラリンピックについて



8月28日に開幕し、約2週間の激闘が繰り広げられるパリパラリンピックが迫っていますね。パラリンピックは世界最高峰の障がい者スポーツ大会であり、オリンピック終了後に同じ場所で開催されます。さて、パラリンピックとは、どのようなきっかけで始まったのでしょうか。

パラリンピックの父と呼ばれるイギリスのグットマン博士が、第二次世界大戦で負傷しリハビリを受けていた人達に対し、積極的に治療にスポーツを取り入れ、病院内でアーチェリー大会を開催したことが、パラリンピックのルーツと言われています。「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」この理念に感銘を受けた中村医師は、日本でも障がい者スポーツへの理解を深めようと精力的に活動し、1964年東京パラリンピック開催にも尽力したそうです。

第1回目のパラリンピックは1960年にローマで開かれ、23か国、約400名の選手が参加しました。世界で初めての同一都市で2回目の夏季パラリンピックとなった前回大会、東京2020は、約4,400人のアスリートが参加し、観客数も大会ごとに増えているそうです。ちなみにパラとは「parallel（並行、もう1つの）」という意味です。

前回大会から日本代表選手団公式服装（開会式用・式典用）がオリンピック、パラリンピック共に統一のデザインになりました。ちなみに、競技ユニフォームが統一されたのは、1998年の長野オリンピック・パラリンピックからです。また、パリ大会のパラリンピックとオリンピックでは、同じマスコット（フリージュ）になりました。これは両大会の歴史の中で初めてのことだそうです。

パリ大会は、両大会がより近い関係性になること、両大会がより協力し合うことを印象づけているようですね。



長野パラリンピックで金メダルを獲得され、IOC・IPCの教育委員としても活躍中のマセソン美季さんは、東京2020大会の際このようにおっしゃっています。

『多様性を認め合い、公平なものを作るための工夫がいっぱい詰まっているパラリンピックと教育とを融合させたら、世の中から差別や偏見をなくせるのではないか。学校でパラリンピック教育を受けた子どもたちがインクルーシブな考え方をを持った大人に育ってくれたら、その子どもたちが提供するサービスやつくるものはこれまでと全く違うものになるのではないか。』

オリンピック・パラリンピックは、夢やパワーを与えてくれると同時に、スポーツの価値、障がいのある人や海外の文化等の多様性に対する理解を深めるきっかけになると思います。これらを1つのイベントとして終わらせるのではなく、自分たちのくらしや身近な事柄とつなげて捉えられるように、学校でも取り組んでいくことが大切だと感じます。

## ★ちょこっと紹介★

『I'mPOSSIBLE』は、国際パラリンピック委員会(IPC)が開発した教育プログラムで、約40か国で活用されている教材です。世界中の子どもたちが、パラスポーツを題材にパラリンピックの価値を学び、「パラスポーツを通じインクルーシブな世界を作る」力を育むことができるように開発された教育プログラムです。パラリンピックについての小・中学生、高校生向けの教材も充実しています。

また、NHKでは『アニ×パラ』というパラスポーツを題材にしたアニメを観ることができます。授業でも活用できるよう、学習指導案やワークシートも確認することができます。ぜひご活用ください。

## 〈お問い合わせ先〉

熊本県立球磨支援学校

主幹教諭：紫垣

特別支援教育コーディネーター：高島

TEL：0966-42-3792

FAX：0966-42-6938

E-mail:kuma-s@pref.kumamoto.lg.jp

HP アドレス：<http://sh.higo.ed.jp/kuma-s/>



↑  
球磨支援学校の HP  
QR コード